

= 支部だより =

北海道支部

北海道支部社会貢献事業（雪氷教育普及）の開催報告

テーマ：「2011 サイエンスパーク」

日時：2011 年 8 月 4 日（木）15:00-16:00

2011 年 8 月 5 日（金）10:30-11:30

場所：サッポロファクトリー（札幌市北 2 条東 3 丁目・4 丁目）

主催：北海道、(地独)北海道立総合研究機構

特別協賛：サッポロビール株式会社、
サッポロファクトリー

協力：(独)科学技術振興機構、
サイエンスサポート函館

内容：(1)体験コーナー (2)展示コーナー
(3)ステージショー

参加者：約 60 名（雪氷学会北海道支部による体験コーナーのみの人数）

■体験コーナー『雪の結晶を作ろう』プログラム

1) 平松式雪の結晶生成実験

2) 雪の結晶型アイロンビーズ作成

司会：8 月 4 日（木）小松麻美（日本気象協会北海道支社）

8 月 5 日（金）大鐘拓哉（小樽市総合博物館）



図 1 冷たい雪結晶の作成（平松式雪結晶実験）



図 2 アイロンビーズの作成

■全体概要

サイエンスパークは豊かな北海道の未来を創る科学技術の振興のため、北海道の未来を担う子ども達に、科学技術を身近に体験し理解を深めてもらうことを目的として、2002 年から北海道が主催して行っている夏休みのイベントである。

(社)雪氷学会北海道支部では、一般市民に向けた科学技術の振興と啓蒙活動を目的として、社会貢献事業（雪氷教育普及活動）を行っている。2011 年度は北海道と北海道立総合研究機構が主催するサイエンスパークにおいて、体験コーナー「雪の結晶を作ろう」を開催した。参加方法は他の体験コーナーと同じく事前申込制で、各回とも定員の 30 名を上回る応募があった。

各回 1 時間のプログラムで、平松式雪結晶生成装置による冷たい雪の結晶を作る実験と、アイロンビーズによる熱い雪の結晶作りを行った。アイロンビーズ作成中には、様々な雪結晶を形作る子ども達に対し、雪の結晶の写真を見せながら、実際の結晶の形も様々であることを説明した。

そのほか、出展団体の出題による科学クイズ大会に対し、(社)雪氷学会北海道支部から 2 題出題



図 3 完成した熱い雪結晶を持つ子供たち

した。内容は、北海道の雪の研究にちなみ、中谷宇吉郎と雪まりもをテーマにしたものである。

科学クイズ大会の景品として、北海道教育大学の尾関俊浩氏による雪結晶の写真ポストカードを、会場内のスタンプラリーの景品として、成田英器氏による積雪の薄片ポストカードを提供した。

今回は限られた時間の中で、多くの子ども達に一斉に作業してもらう教室方式としたため、事前のリハーサルを入念に行った。その結果、参加者は小学校1年生～6年生まで幅広かったが、全員が時間内に、雪の結晶ができる過程を観察しながら、アイロンビーズの雪の結晶を完成させること



図 4 成田英器氏による写真と解説の付いた薄片ポストカード

ができた。

各回わずか1時間ほどのイベントではあったが、子供たちの笑顔は明るく、雪や氷に対する彼らの好奇心を育むことが出来たように思う。今後も雪氷学会支部会員による教育普及活動が継続されるよう希望する。

なお、今回の社会貢献事業を実施するにあたり、支部理事および支部会員の有志に協力していただいた。ここに感謝の意を表する。

(日本気象協会北海道支社 小松麻美 記)

(2011年8月10日受付)

北信越支部

「杣池高原 雪崩の森 公開見学会」報告

主催：アルプス雪崩研究所、共催：日本雪氷学会
北信越支部

2011年6月19日、梅雨の中休みに長野県小谷村杣池高原で標記見学会が行われた。参加者は計10名。そのほとんどは、前日の信州大学山岳科学総合研究所（松本）での公開講演会「雪崩を追って三十年」の参加者であった。

案内はアルプス雪崩研究所若林が担当した。ま

ず杣池高原のゴンドラリフト、スキー場施設が集中する「杣の森」（標高1500～1600m）で1996年2月の大雪崩が斜面に乗り上げて広葉樹をなぎ倒した跡を見る。さらに、ひよどり峰の山裾に展開するオオシラビソ巨樹林とミズバショウの湿原を歩く。針葉樹オオシラビソの巨樹といっても一様に地上4～5mで幹が2、3本に分岐した「フォークツリー」である。この樹林は過去に積雪深5m前後の時に大雪崩に襲われて雪面付近で折れた